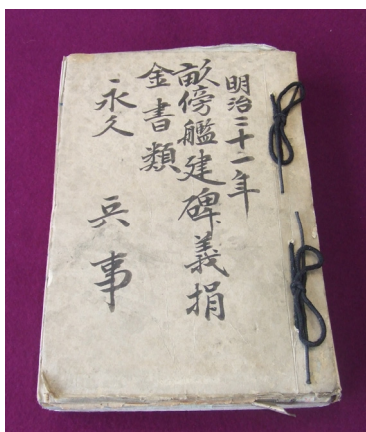


欽傍艦建碑義捐金書類



海軍省の拡張計画に基づき、三隻の巡洋艦の建設計画がなされましたが、欽傍艦はそのうちの一隻でありました。

この欽傍艦は、明治17年に仏国の造船会社ホルジ・シャンチェーに発注し、19年4月に進水式を行い、同年7月に公式運転を終えて、同年10月に海軍大尉飯牟禮俊位以下7名と仏国人79名が乗り組み、仏国のハーブル港を出帆し日本へ回航されることになりました。

この欽傍艦は、明治19年12月3日に最後の寄港地シンガポールを出帆し、同年12月14日か15日に横浜に到着する予定でありました。しかしながら、欽傍艦は、予定日を1週間過ぎて入港しませんでした。

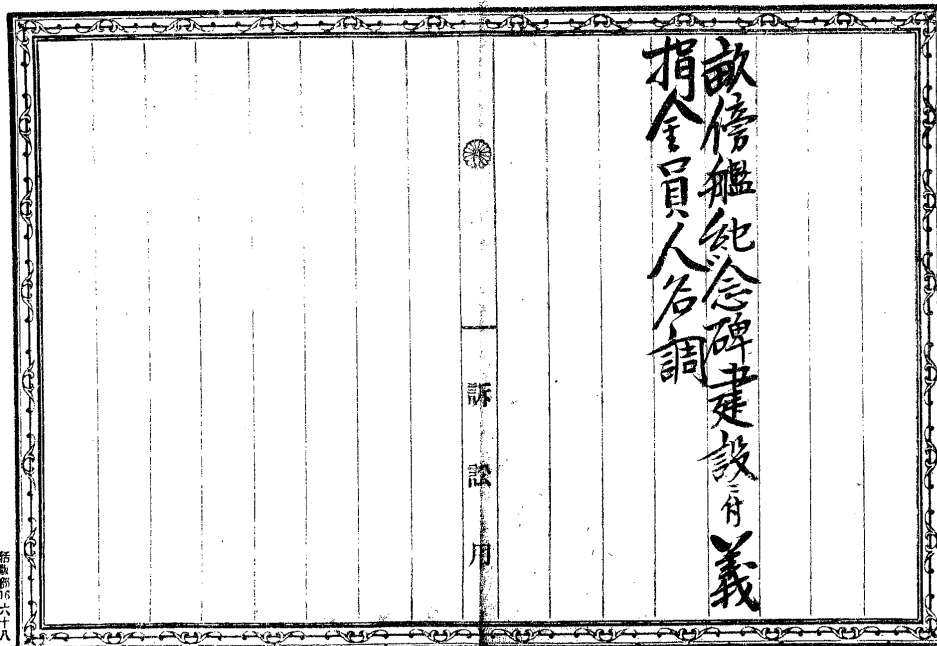
海軍省は、小笠原島、沖縄などの航海域等を島嶼、岩礁及び砂洲等に至るまで八方手を尽くしましたが、欽傍艦の痕跡を見つけることができませんでした。

その後、12月6日にシンガポールを出航し、横浜に到着した英船のジェームスワット号及びベナルドル号等より荒天暴風に遭遇したとの報告も有り、海軍省は欽傍艦が沈没したものと認定しました。

歴史的な文書閲覧室が保管している「欽傍艦建碑義捐金書類」の中に「沈没欽傍艦乗組仕官以下記念碑建設廣告」があり、①主旨、②皇艦欽傍號並ニ回航員ニ關スル記事概畧、③死没人官姓名等が記載されています。

沈没欽傍艦乗組仕官以下記念碑建設廣告						
主旨	皇艦欽傍號並ニ回航員ニ關スル記事概畧	死没人官姓名	建碑位置	義捐金	建碑委員	附記
<p>本艦は明治十七年七月に南洋に派遣され、同月十八日シンガポールに到着し、十九日午後八時、突如暴風が吹起り、船は傾倒し、翌朝八時、船は沈没し、乗組員は全滅した。この惨劇は、我が海軍の歴史に刻まれるべきものである。故に、この沈没した皇艦の乗組員を記念し、この地に記念碑を建てようとする。この碑は、皇艦の乗組員の名を刻み、その功績を後世に伝えるものである。この碑の建設は、我々の責務である。我々一人一人が、この碑の建設に力を尽くそう。この碑の建設は、我々の責務である。我々一人一人が、この碑の建設に力を尽くそう。</p>	<p>皇艦欽傍號は、明治十七年七月に南洋に派遣され、同月十八日シンガポールに到着し、十九日午後八時、突如暴風が吹起り、船は傾倒し、翌朝八時、船は沈没し、乗組員は全滅した。この惨劇は、我が海軍の歴史に刻まれるべきものである。故に、この沈没した皇艦の乗組員を記念し、この地に記念碑を建てようとする。この碑は、皇艦の乗組員の名を刻み、その功績を後世に伝えるものである。この碑の建設は、我々の責務である。我々一人一人が、この碑の建設に力を尽くそう。</p>	<p>海軍大尉 飯牟禮俊位 海軍大機關士 森友彦 六 海軍大尉 飯牟禮俊位 海軍大機關士 森友彦 六</p>	<p>青山聖地 町ヨリ入ル大 通り行キ詰 右側高地</p>	<p>一、御賛成方ハ一人ハ數人連合セテ御選金アルモ一口金拾圓以上ナルベシ 一、義捐金ハ郵便爲替又ハ郵便切手代用御勝手ノ一但切手代用ハ必ス式紙火ハ壹錢ノ切手トス 一、届ケ先ハ東京公園地水鏡社内總理會計委員「宛ル」ト御送金ノ日ヨリ二十日以内ノ左ノ如キ受取証書入手無キ時ハ右委員ニ御照會可致下 一、義捐人名並ニ御選金額ヲ毎月一回新聞紙ニ廣告スル 一、但時宜ニ因リ御選金アルモ</p>	<p>海軍大尉 飯牟禮俊位 海軍大機關士 森友彦 六 海軍大尉 飯牟禮俊位 海軍大機關士 森友彦 六</p>	<p>第一号 受取組 一、沈没欽傍艦乗組員建碑金ノ内トシテ義捐セラルベシ 一、東京公園地水鏡社内總理會計委員「宛ル」ト御送金ノ日ヨリ二十日以内ノ左ノ如キ受取証書入手無キ時ハ右委員ニ御照會可致下 一、義捐人名並ニ御選金額ヲ毎月一回新聞紙ニ廣告スル</p>

これを受けて、県では畝傍艦の沈没を悼み、各郡役所及び各警察署を通じて広く義捐金を募り、取りまとめ送金しています。



なお、畝傍艦紀念碑は、東京都港区の青山霊園に建碑されています。